第３講　【古代編】南アジア・東南アジアと南北アメリカの特質

PART1 古代インドの王朝１

Chapter 1　バラモン教の内部改革と仏教・ジャイナ教の成立

目標　バラモン教の腐敗に対する改革運動を理解しよう。
仏教とジャイナ教の共通点を学ぼう。

1　バラモン教の腐敗と改革運動

①バラモン教のおこり

インドに侵入した〔　　　　　　　　〕人の自然崇拝からおこった多神教

→『〔　　　　　　　　〕』を聖典として成立

A　アーリヤ人が先住民を征服していくなかで，祭祀を司る**バラモン**を最上位とする身分秩序である**ヴァルナ制**が南アジアの社会基盤であった

B　**ガンジス**川流域で農業生産の拡大にともない商業活動が活発となり，前６世紀頃から中・下流域に城塞を持つ都市国家が多数生まれた

→バラモンより身分の低い武士階層**クシャトリヤ**と商業に従事する**ヴァイシャ**が台頭

②バラモン教の改革運動

バラモン教の形式的な祭式至上主義を批判する改革運動がおこり，人間の内面を深く考察した〔　　　　　　　　　　　〕哲学が生まれた

※生命は死と再生を永遠に繰り返し(〔　　　　　　　　〕),来世は現世の行い(**業・カルマ**)で決まると考え，宇宙の本体である**梵**（〔　　　　　　　　〕）と人間の本質である**我**（〔　　　　　　　　〕）が究極において同一（**梵我一如**）であることを悟ることで**輪廻**から**解脱**(げだつ)できると説いた。

2 仏教・ジャイナ教の成立

前５世紀頃　バラモン教の権威やヴァルナ制を否定した２つの宗教が生まれた

①仏教

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕（**ブッダ**）が開祖

A　四諦（４つの真理）

心の内面から人々の悩みを解くことを重視し，人生の苦を解決するための真理

B　**八正道**

正しい行いの方法

C　ガンジス川中流から布教が始まり，クシャトリヤやヴァイシャ層にも広がった。出家した信者は仏教教団（サンガ）をつくり，在家信者も増えていった

サーンチの仏塔

②ジャイナ教

〔　　　　　　　　　　　　　　〕が開祖

禁欲的な苦行と徹底的な不殺生により解脱を得ると説かれ，主に商人のヴァイシャ層に多くの信者を得た

いずれの新宗教も祭式を行うだけで最高位の身分であるバラモンに不満

→都市国家を運営するクシャトリヤや経済を担うヴァイシャ（商人）たちから支持される

まとめ

バラモン階級が腐敗するとウパニシャッドの思想が生まれ，輪廻からの解脱が目指された。

仏教もジャイナ教も，バラモン教を否定し，クシャトリヤやヴァイシャに支持された。

Chapter２　マウリヤ朝のインド統一

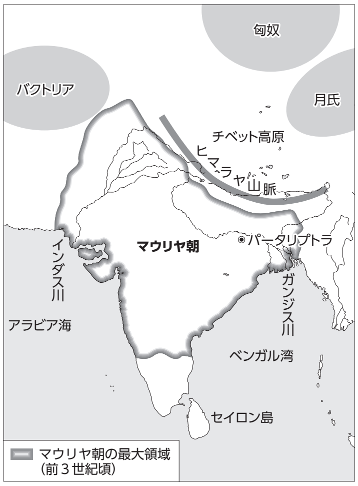
目標
マウリヤ朝が成立した背景を理解しよう。
アショーカ王の事績に影響を与えた宗教は何だったのだろうか。

1　マウリヤ朝の成立

前６世紀頃から　ガンジス川流域で城塞都市を持つ王国が多数分立
→**コーサラ国**を前５世紀に滅ぼした〔　　　　　　　　〕が，北インド最大の勢力となった

前 330 年　インダス川流域にまで進出していたアケメネス朝ペルシアが**マケドニア**の〔　　　　　　　　　　〕大王の**東方遠征**によって滅ぼされた
→大王によって西北インドは制圧されたが、これをきっかけにインドの政治的統一が進められた

前 317 年頃　マガダ国の武将だった〔　　　　　　　　　　　　〕**王**（在：～前 296 年頃）が，ガンジス川中流域の**パータリプトラ**を首都とする〔　　　　　　　　　〕を建国
→インダス川流域のギリシア勢力を排して西南インド・デカン高原にも進出し，インド初の大帝国を形成



マウリヤ朝最大領域

2 アショーカ王の治世

①前３世紀中頃，マウリヤ朝は第３代〔　　　　　　　　　　　〕の時代に
インド最初の統一王朝となった

②王は国土拡大のための征服活動による虐殺行為を悔い，〔　　　　〕へ帰依

A　不殺生，慈悲などの守るべき〔　　　　　〕（法，社会倫理）を理念とした統治

B　領内各地にダルマの詔勅を刻んだ磨崖（碑）・石柱（碑）を建造

C　仏教教団**サンガ**の保護

D　仏典の編さん（**第３回仏典の結集**）

E　スリランカ（セイロン島）への布教

③王の死後，仏教優遇へのバラモンの反発，財政難などで急速に衰退

アショーカ王の石柱碑

まとめ

アレクサンドロス大王の東方遠征によるインドの混乱から，マウリヤ朝が成立しインド初の統一王朝となった。
アショーカ王は仏教に帰依し，ダルマ（法）による社会統治を目指した。

第３講　PART１　確認問題

1　バラモン教の身分制であるヴァルナ制においてバラモンの次の武士階層を何というか。

①　シュードラ　　②　ヴァイシャ
③　クシャトリヤ　　④　カースト

2　バラモン教の改革運動から生まれた人間の内面を深く考察した哲学は何か。

①　ヴァルナ　　②　アヴェスター
③　ヘレニズム　　④　ウパニシャッド

3　仏教を開いたのはだれか。

①　アショーカ　　②　ガウタマ＝シッダールタ
③　ナーガールジュナ　　④　カーリダーサ

4　ヴァルダマーナが開いた宗教は何か。

①　ゾロアスター教　　②　マニ教
③　ヒンドゥー教　　④　ジャイナ教

5　ガンジス川中流域で前５世紀にコーサラ国を滅ぼして北インド最大の勢力となった国はどこか。

①　マガダ国　　②　メディア王国
③　カリンガ国　　④　バクトリア王国

6 前４世紀末にパータリプトラを首都とするマウリヤ朝を建てた王はだれか。

① クリシュナ　② ブッダ
③ チャンドラグプタ　④ シヴァ

7 マウリヤ朝をインド最初の統一王朝とした第３代の王はだれか。

① ラーマ　② アショーカ
③ ヴィシュヌ　④ サムドラグプタ

8 マウリヤ朝第３代の王が帰依した宗教は何か。

① バラモン教　② ヒンドゥー教
③ 仏教　④ ジャイナ教

第３講　PART１　確認問題　解答

1 解答：③　ヴァルナ制において司祭者であるバラモンの次の**武士階層**を**クシャトリヤ**という。

2 解答：④　**ウパニシャッド**は祭式中心となったバラモン教の改革運動から生まれた哲学書の総称である。

3 解答：②　**ガウタマ＝シッダールタ**が開いた**仏教**はヴァルナ制を否定して慈悲の心と平等を説いた。

4 解答：④　ヴァルダマーナは苦行と不殺生による解脱を説く**ジャイナ教**を開いた。

5 解答：①　コーサラ国を滅ぼして北インド最大の勢力となった国は**マガダ国**である。

6 解答：③　マガダ国の武将だった**チャンドラグプタ**はマウリヤ朝を建て，パータリプトラを首都とした。

7 解答：②　第３代の**アショーカ王**の時代にマウリヤ朝は**インド最初の統一王朝**となった。

8 解答：③　アショーカ王は征服活動によって多くの犠牲者を出したことへの反省から**仏教**に深く帰依した。